

研究課題名	重症消化管アレルギーの病態解明
フリガナ	モリタ ヒデアキ
代表者名	森田 英明
所属機関（機関名） （役職名）	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 室長
本助成金による発表 論文，学会発表	Akashi M et al. J Allergy Clin Immunol Pract. 2022;10:1110-1112.

研究結果要約

近年、本邦において新生児・乳児消化管アレルギー（以下、消化管アレルギー）の症例報告が急激に増加している。消化管アレルギーは食物アレルギーの一種であるが、一般的な食物アレルギーとは病態が異なると考えられている。一般的な食物アレルギーとは異なり、消化管アレルギーはIgE抗体を介さない機序（非IgE依存型アレルギー）が想定されているが、その病態の詳細はほとんど明らかになっていない。消化管アレルギーは、重篤な成長障害を認める症例が存在すること、原因抗原の同定が困難な症例が多いことから、その病態の解明及び新たな治療法の開発が期待されている。そこで本研究では、重症消化管アレルギー病態を明らかにすることを目的として、確立した重症消化管アレルギーの動物モデルを用いて、炎症惹起メカニズムの解析を行った。その結果、組織局所には強い好酸球浸潤を認めること、また炎症及び体重増加不良の誘導には自然リンパ球が関与している可能性を見出した。また、消化管アレルギーのうち、近年、鶏卵が原因の食物蛋白誘発胃腸炎が急激に増加していることを明らかにした。